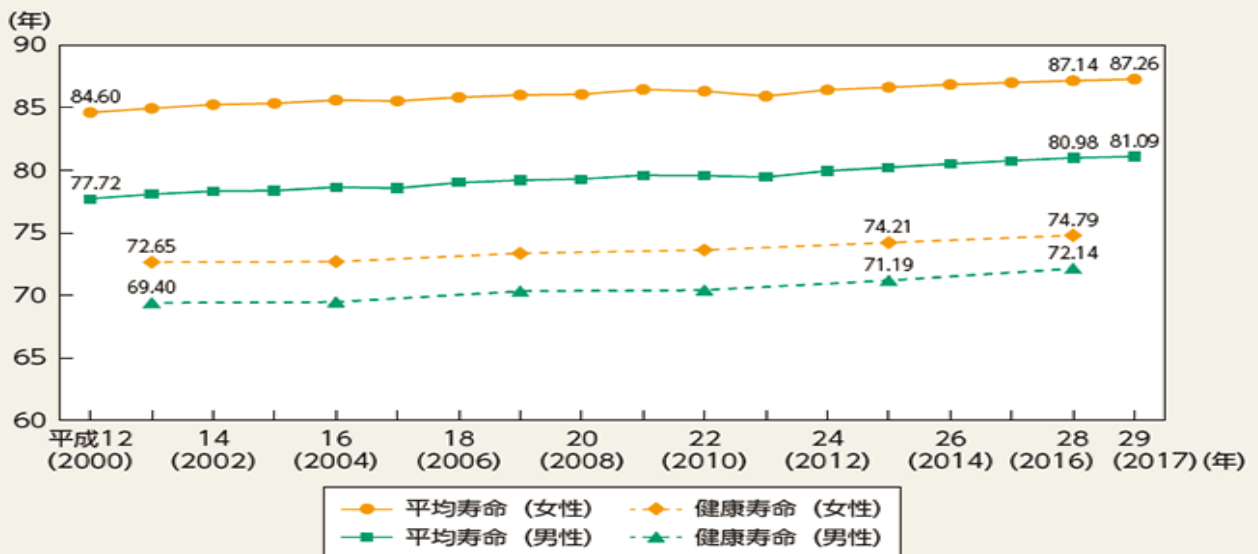


人生100年に向けて、コミュニケーションと生きがいを考える ～スマホとAI技術が普及する時代に～

ルーテル学院大学客員教授・前三鷹市長 清原慶子

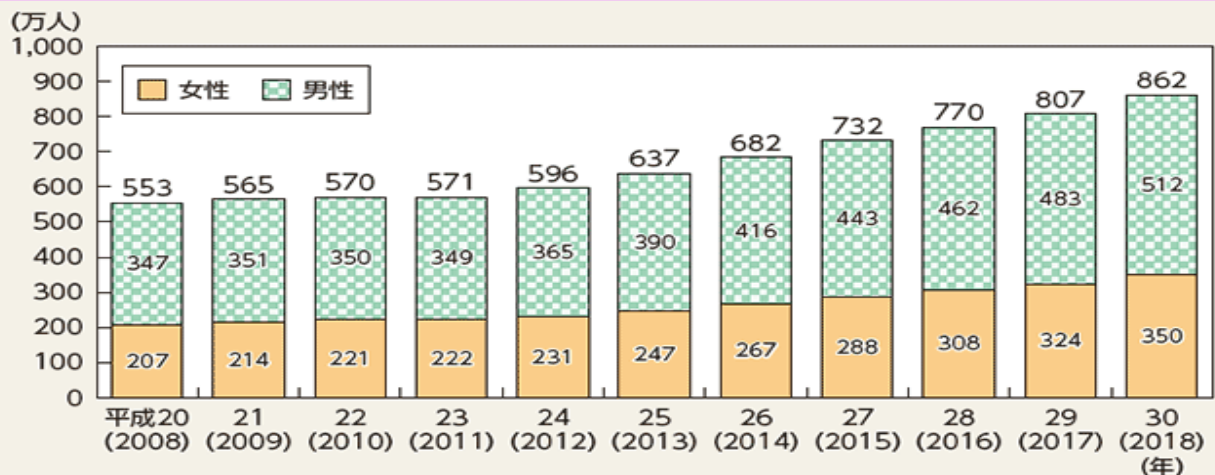
1. 人生100年時代の訪れ

◎ 平均寿命と健康寿命の推移（男女別） （出典：内閣府『男女共同参画白書』令和元年版）



(備考) 1. 平均寿命は、平成12年、17年、22年及び27年は厚生労働省「完全生命表」、その他の年は厚生労働省「簡易生命表」より作成。健康寿命は、平成13年から22年は厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」、平成25年、28年は厚生労働科学研究費補助金「健康寿命及び地域格差の要因分析と健康増進対策の効果検証に関する研究」より作成。
2. 健康寿命は、日常生活に制限のない期間。

◎ 65歳以上の就業者数の推移 （出典：内閣府『男女共同参画白書』令和元年版）



(備考) 1. 総務省「労働力調査」より作成。
2. 平成20年から28年までの値は、時系列接続用数値を用いている。
3. 就業者数の平成23年値は、総務省が補完的に推計した値。
4. 就業者数は、小数点第1位を四捨五入しているため、女性及び男性の合計数と就業者総数が異なる場合がある。

◎長寿の時代を生きるということ

青少年	長期化する人生を洞察する必要性の増加
働く世代	転職・退職後の働き方を視野に入れた<キャリアデザイン>の検討の必要性
長寿世代	退職後の生き方・地域での暮らし方・自分自身を見つめ、生き方・生かし方を考える必要性

共通課題：加齢の認識と受容 ⇒ 自己実現を考える

キーワード：多世代・多様性・柔軟性・創造性

◎長寿化とパーソナル・コミュニケーションの変容

●人與人

- ・対面による会話
- ・メモ等文字
- ・手紙・ハガキ等郵便によるやりとり
- ・固定電話による会話
- ・ポケットベルによる伝達
- ・携帯電話による対話
- ・電子メール
- ・テレビ電話

●人とモノ・機械

- ・スイッチ
- ・リモコン
- ・音声
- ・センサー
- ・指紋認証
- ・顔認証

◎長寿化とメディアの変動

- ◆新聞・雑誌 ⇒ インターネット配信
- ◆固定ラジオ ⇒ トランジスタラジオ ⇒ インターネット/スマートフォン
- ◆白黒テレビ ⇒ カラーテレビ ⇒ ハイビジョン ⇒ 4K8K
- ◆固定電話 ⇒ 携帯電話 ⇒ スマートフォン
- ◆大型コンピュータ ⇒ パソコン ⇒ タブレット
- ◆映画・録画 ⇒ VHS・ベータ ⇒ DVD/ブルーレイ ⇒ 動画配信
- ◆パソコン通信 ⇒ 電子メール ⇒ LINE・チャット
- ◆レコード ⇒ カセット ⇒ MD/CD ⇒ 音楽配信
- ◆印鑑による金融機関手続き ⇒ ATM/カード ⇒ インターネット(暗証番号等)
- ◆税等公共料金支払い ⇒ 現金 ⇒ 口座引落/ATM振込・払込/コンビニ収納 ⇒ カド等キャッシュレス

◎メディアによる「光」と「影」の事例

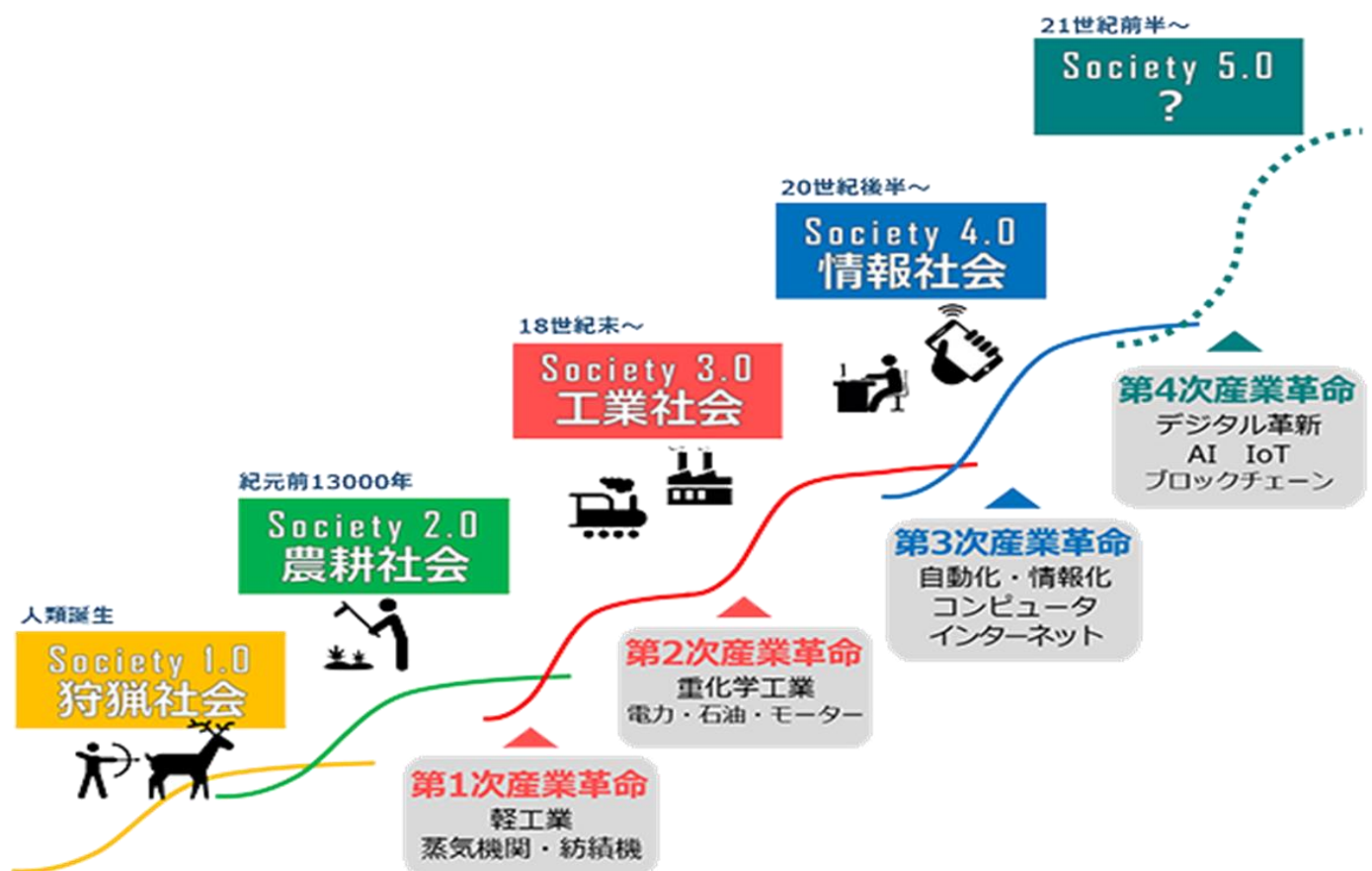
<光>	<影>
◆国内外と文字・音声・映像等の交換容易	◆移動・買い物等個人情報事業者が把握
◆免許を所有していなくても国際的に情報発信が可能	◆固定電話等を使用した特殊詐欺被害の増加
◆年齢・心身の障がいの有無によらず情報利用が容易	◆インターネットを使用した消費者被害の顕在化
◆距離/時間の制約を克服した迅速な手続/処理が可能	◆SNSを媒介とした青少年誘拐等の犯罪の発生
◆必要とする情報の蓄積容量の拡充	◆スマホ等使用やゲーム依存症等の病理

◎メディア変動の中で生き方を考える

- ◆ICT（情報通信技術）やデジタル技術には「光」と「影」の両面が存在
 - ◆「光」を活かし「影」をなくす方向で、道具として使いこなせば、人生をより豊かなものにすることが可能
 - ⇒今まで得られなかったような知識の発見
 - ⇒旧友と再会し、旧交を温めることも容易
 - ⇒距離や時間の制約の克服
 - ⇒健康状態や体調の自己管理が容易
 - ◆デジタル技術とは異文化との出会いであり、ストレスを感じることもあるが、慣れる可能性も大きい
 - ◆新しいメディア、技術、文化の適切な受容と利用によって、生活向上に結び付ける可能性
- <参考> 世界最高齢プログラマー若宮正子『老いてこそデジタルを。』（1万年堂出版）12月5日発行

2. 社会の動きをみる

◎「第4次産業革命」及び“Society5.0”



◎SDGs（持続可能な開発目標）

- ◆「Sustainable Development Goals」の略称
- ◆SDGsは2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標
- ◆持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成
- ◆理念：地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）
- ◆発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）な目標

- ◆Goal 1：貧困をなくそう
- ◆Goal 2：飢餓をゼロに
- ◆Goal 3：すべての人に健康と福祉を
- ◆Goal 4：質の高い教育をみんなに
- ◆Goal 5：ジェンダー平等を実現しよう
- ◆Goal 6：安全な水とトイレを世界中に
- ◆Goal 7：エネルギーをみんなに、そしてクリーンに
- ◆Goal 8：働きがいも、経済成長も
- ◆Goal 9：産業と技術革新の基盤をつくろう
- ◆Goal 10：人や国の不平等をなくそう
- ◆Goal 11：住み続けられるまちづくりを
- ◆Goal 12：つくる責任、つかう責任
- ◆Goal 13：気候変動に具体的な対策を
- ◆Goal 14：海の豊かさを守ろう
- ◆Goal 15：陸の豊かさを守ろう
- ◆Goal 16：平和と公正をすべての人に
- ◆Goal 17：パートナーシップで目標を達成しよう

◎ヤフーとLINEが2020年10月に統合へ

◆11月18日、多様なインターネットサービスを展開するヤフーを運営するZホールディングスと、対話アプリのLINEが、経営統合に基本合意し、公正取引委員会など各国の当局審査を経て2020年10月の統合に合意と報道

◆ヤフーの利用者は中高年層に多く月間利用者は約6,700万人、LINEは対話アプリで若年層の利用者が多く月間利用者は約8,200万人

◎進化し続ける自動運転

- ◆米国グーグル系「ウェイモ」：2018年12月から自動運転車で送迎する商業実験
- ◆GMクルーズ：ゼネラルモーターズ・ホンダ
- ◆トヨタ：2018年9月：ソフトバンクと「モネ・テクノロジーズ」を設立
- ◆CASE：Connected、Autonomous、Shared/Service、Electric
→法整備・雇用問題等の課題は多い

◎東京都が来年度、AI活用のIT職を新設し採用開始

- ◆10月16日東京都人事委員会意見書：人工知能（AI）などを活用できる人材の確保が必要
- ◆東京都は「Society 5.0」の実現に向けた取組に一環としてIT職種を新設し、来年度からの採用を決定。行政系の職種は事務・土木など43あり、新設は1973年以来

◎政府「AI研究開発ネットワーク」年内に設立へ

- ◆10月21日報道：産業技術総合研究所、理化学研究所、情報通信機構に加えて、農業・食品産業技術総合研究機構、土木研究所、新エネルギー・産業技術総合研究開発機構、大学等
→会長予定者：北野宏明・ソニーコンピュータサイエンス研究所社長

3. AI(人口知能)の台頭

◎AIをめぐる状況

◆プラットフォーム（Platformer）の台頭と懸念

インターネット上で大規模なサービスを提供している巨大IT企業を指す意味で用いる
とりわけ「GAF A : Google、Amazon.com、Facebook、Apple」

あるいは「BATH: B〈百度（バイドゥ）〉、A〈阿里巴巴集団（アリババ）〉、
T〈騰訊（テンセント）〉、H〈華為技術（ファーウェイ）〉」

〈例〉中国・アリババ：約20年前にネット通販開始 ⇒アリペイ：現時点7億人、

企業価値：トヨタの約2.5倍 C I T Y B R A I N : 都市空間の管理・運営⇔ビッグデータとAI

◆日本 : Super Smart City

キャッシュレス、ライドシェア、セーフドライビング、遠隔医療、ワンスオンリー（行政に一度提出した資料は、もう一度提出する必要がないとの考え方）、宅配便管理等、AI、ビッグデータ、都市管理の新手法の開発と、そのシステムの輸出等の構想

◎AI の定義 : 官民データ活用推進基本法から

- ◆AI の研究者が 10 人いれば 10 通りの定義がなされている状況
- ◆2016 年の官民データ活用推進基本法により、初めて法律で AI が定義された
「人工知能関連技術」とは、人工的な方法による
 - (a)学習、推論、判断等の知的な機能の実現 及び
 - (b)人工的な方法により実現した当該機能の活用 に関する技術

◎ルール・ゲームの中での AI

- ◆定められたルールの範囲内で再現可能で人間を凌駕可能
- ◆人間と AI、AI と AI の間でのゲーム力の強化が人間と人間の間でのゲーム力を強化する可能性
 - 1997 年 IBM 製「ディープ・ブルー」がチェス世界チャンピオンを破る
 - 2013 年 将棋ソフト「Ponanza」が平手でプロ棋士を破る
 - 2016 年 Google「AlphaGo（アルファ碁）」がイ・セドル九段を破る
 - 2017 年 「アルファ碁ゼロ」が人間の過去の棋譜を一切必要とせず、「アルファ碁」を凌駕

◎AI による画像の認識力は人間を凌駕？

- ◆日本はじめ各国が入出国管理に顔認証・指紋認証を導入。国家権力の行使を出入国管理官に加えて顔認証の AI が行使する時代
- ◆瞬時に、人間と遜色ない精度で画像の「特徴」を抽出・判定

◎AI は仕事を奪うか？

- ◆マイケル・A・オズボーン、カール・ベネディクト・フライ
『雇用の未来～いかに仕事はコンピュータ化されていくのか？～』オックスフォード大学、2013 年
- ◆米国労働省が定めた 702 個の職業を、クリエイティビティ-社会性-知覚-細かい動きといった項目毎に分析
- ◆米国の雇用者の 47%が 10 年後には職を失うと結論
- ◆ある日本での会議でのオズボーン氏との質疑応答から
 - Q : AI に代替されない人間に求められる能力とは何か
 - A : ソーシャル・インテリジェンス（交渉力、人員管理能力、説得力等）とクリエイティビティ

◎日常生活の中に浸透する AI 技術 ⇔スマホは入り口

◎AI は役所の仕事・市民サービスを変える : 事例「港区 AI 元年」の取組

- ◆多言語 AI チャットによる外国人向け情報発信
- ◆保育園入園選考の AI マッチング
- ◆AI 議事録自動作成支援ツール
- ◆AI によるホームページ児童翻訳の精度向上
- ◆AI-OCR による手書き申請書の高精度読み込み

4. 人生 100 年の「生きがい」を考える

- ◆「知る」「考える」—— 知的好奇心
- ◆「困る」「変える」—— 課題発見・課題解決
社会変動と課題の多様化 解決イメージの多元化の必要性
- ◆「学ぶ」—— 教育（組織的・意図的）
学習（自主的・共同的）
- ◆「働く」—— 職業・ボランティア
- ◆「楽しむ」「快い」—— 娯楽・文化活動・体操・スポーツ
⇒「生かされる」「評価される」「役立っている」：自己実現・自己成長・社会的貢献
⇒他者との出会い：「交流」
⇒生きがいを実現する場：■家族
■地域社会 community：地域性・共同性
■活動のネットワーク network
- ◆自立：赤ちゃんが2本の脚で立ち上がる
能力・経済力・身体といった外的要素による一人立ち
- ◆自律：自分の意志のもとに方向づけして歩く
価値観・理念・哲学・信条など内的要素による一人立ち
- ◆人間としての精神的な自律が共生・協働の過程で保障される社会が求められる

5. コミュニケーションを考える

- ◆読む（目：視覚） ⇔ 書く 文字・文章
描く 絵画・図表
- ◆聞く（耳：聴覚） ⇔ 話す 話し言葉
- ◆見る（目：視覚） ⇔ 見せる 創る 映像・写真・演劇・パフォーマンス・ジェスチャー
- ◆嗅ぐ（鼻：嗅覚） ⇔ 香らせる お香・芳香剤
- ◆味わう（口：味覚） ⇔ 調理する
- ◆触れる（手等身体） ⇔ 握手・抱擁
⇒五感全体での意味のやりとり 意識的であれ、無意識であれ
- ◆コミュニケーション：communication
「自我」と「客我」の自己認識、「他者」との意思疎通、「他者」との「相違」の理解
- ◆協働：collaboration
目的・過程・成果・評価 の共有
- ◆地域社会：community
⇒“co”が示すのは 相互性・社会性・共同性 お互い様・おかげ様
- ◆「よいコミュニケーション」の考え方
20世紀は「合意」「一致」ができること
⇒21世紀は「多様性」を尊重する時代であり、「相違」を理解すること
相手を尊重した対話の積み重ね、多元的情報源から真実を見抜く情報活用能力の醸成が重要
- ◆創発：emergence：要素からの予見、推定が不可能で、要素に還元も不可能なことが発生
⇒めぐり逢いの妙味、他者から引き出される自分の魅力・能力、アイデア・意見
- ◆コミュニティはコミュニケーションの場であり、「知的創造空間」

6. 三鷹市の生きがいの機会

◎三鷹高齢者憲章

（前略） 私たち、三鷹市をつくるすべての人たちは、高齢者が地域の中で、希望をもって安心して年齢を重ねることができるまちになることを願って、この憲章を定めます。

私たちは

1. 高齢者の過去と現在の働きを心に刻み、高齢者一人ひとりが誇りをもって生活できるように努めます。
2. 高齢者が、その豊かな経験と知と技をいかし、年齢と状態にかかわらず、自己実現できる、あらゆる機会を提供します。
3. 高齢期において、だれもが、心身ともにすこやかに生活できるよう、健康づくりを含むサービスや活動の充実に努めます。
4. 高齢者それぞれの生活を大切にする、ともにふれあい、支えあう、だれにでもやさしい地域社会をつくりまします。
5. 相互の理解に基づき、すべての人々の人権が尊重され、排除や差別のない地域文化を築きます。

◎「コミュニティ」の場でのエンパワーメント

◆「コミュニティ」とは

- ⇒高齢者・障がい者の見守り、防災や防犯、子ども・子育て支援、教育、文化、まちづくり等の多様なサービスの共通の現場
- ⇒予防、早期発見、早期対応の現場

◆「民学産公の協働」の意義

- ⇒多様な担い手相互の接点の増加
- ⇒多様性が地域の持続可能性を推進する
- ⇒支援者・被支援者双方にとっての「エンパワーメント」

○三鷹市における活動分野

- ◆住民協議会によるコミュニティセンターの運営管理：1970年代～
- ◆安全安心・市民協働パトロール：2004年度～
- ◆地域ケアネットワーク事業：2004年度～
⇒7つのコミュニティ住区のすべてで開設 ⇒地域福祉ファシリテーター・傾聴ボランティア
- ◆がんばる地域応援プロジェクト：2006年度～
⇒町会・自治会・管理組合等の活動への補助金
- ◆見守りネットワーク事業：2012年～
⇒病人の早期発見・孤独死の防止
- ◆コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育：2006年～

◎地域ケアネットワーク

- ◆医師会、歯科医師会、薬剤師会、助産師会等、民生・児童委員、社会福祉協議会会員等ボランティアの連携
⇒市内7つのコミュニティ住区で発足、市民と市民の相互支援の実現
⇒介護予防、体力づくり等の講習会の実施と「卒業生」の自主グループ化
- ◆傾聴ボランティア養成講座、地域福祉ファシリテーター養成、認知症サポーター養成

◎ほのぼのねっと（社会福祉協議会）

- ◆住みなれた家、住みなれた地域で暮らしている高齢者、障がい児・者、児童や日常生活でお困りの方々を対象
- ◆安心してより快適に暮らせるように、同じ地域に住む住民が「ほのぼのネット員」となって、住みよいまちづくりを進めるため行うボランティア活動

◎図書館ボランティア

◎日赤奉仕団

- ◆日本赤十字の活動を地域防災や福祉活動で実践（福祉バザー・防災訓練・市民駅伝・敬老のつどい等）

◎コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育

- ◆コミュニティ・スクール委員会の活動
- ◆授業支援、クラブ支援をするボランティア
- ◆地域子どもクラブ（放課後の児童の活動支援）ボランティア
- ◆おやじの会、父親の会のキャンプ指導等の活動
- ◆スクール・エンジェルズ（学校安全支援員）
- ◆みたか地域未来塾の学習支援員

◎認知症にやさしいまち三鷹

◎子ども子育て支援活動

- ◆青少年対策地区委員会（全小学校区）
- ◆交通安全対策地区委員会（全小学校区）
- ◆青少年委員、補導連絡員
- ◆子ども会
- ◆多世代交流センター（多世代交流パートナー）
- ◆ファミリーサポート（子育て援助活動支援事業）

◎シニア SOHO 普及サロン三鷹

- ◆元気なシニアが自らの居場所と出番を創る場（プラットフォーム）の提供
- ◆コミュニティ・ビジネス支援⇒元気なシニアが居場所と出番を確保し活躍

◎三鷹いきいきプラス

- ◆おおむね 55 歳以上の方に、楽しく社会活動をしていただくための事業。
- ◆会員とサポートを必要とする個人・団体を I C T を使ってマッチング（高齢者社会活動マッチング推進事業）

◎わくわくサポート三鷹

- ◆おおむね 55 歳以上の方の仕事探しや、働く方を探している企業の支援
- ◆キャリアカウンセラーなどの資格を持つ専門のスタッフによる就業相談や、就職活動支援セミナーを実施
- ◆高齢者の方々の長年にわたって蓄積した経験と知識を生かし、創業、SOHO、有償ボランティア、NPO 法人などの地域における多様な働き方を紹介

◎老人クラブ（三鷹市老人クラブ連合会）

- ◆三鷹市内 28 の老人クラブが三鷹市・社会福祉協議会・コミュニティセンター・各町会・自治会等と連携
- ◆杏林大学病院ボランティア等「社会奉仕活動」ロコモ活動等「健康を進める活動」芸能大会・文化祭等「生きがいを高める活動」

◎みたかハンディキャブ

- ◆介護保険認定を受けた高齢者、障がい者認定を受けた会員を輸送する福祉輸送サービス

◎三鷹市消費者活動センター運営協議会

- ◆賢い消費者を目指して学習会やセンターまつり等を企画運営し、多世代向け消費者教育や啓発活動を推進

◎三鷹市シルバー人材センター

- ◆おおむね 60 歳以上の会員による、植木・造園、事務、介護、筆耕、建物管理等の多様な業務
- ◆共に助け合い社会に参加する充実感や生き甲斐づくりを自らすすめるという理念（会員憲章）の下で運営
- ◆研修と文化活動

7. 生きがいと生涯学習

◎自己実現と生涯学習

- ◆自己実現の基盤としての健康と自立
- ◆高学歴化の進展による自己実現意欲の顕在化
- ◆生涯にわたって「地域」での居場所と自己実現できる「活動」を得ることの必要性
- ◆地域における多様な「活動」とそれを支える「生涯学習」の意義

◎少子長寿化と生涯学習を考える視点

- ◆高齢者を対象とした学習機会の多様化
- ◆長寿化に関する諸課題の多様化による学習分野の拡大
- ◆長寿化がもたらす地域課題を解決するための生涯学習
- ◆地域課題を解決するための活動に見られる 多世代交流
- ◆高齢者による学習内容・手法の多様化
- ◆生涯学習の分野としての「少子長寿化」
- ◆高齢者による生涯学習と地域活動の循環

◎多様な生涯学習の機会

- ◆生涯学習センター（旧社会教育会館）：市民大学総合コース・むらさき学苑・企画講座・自主グループ
- ◆三鷹ネットワーク大学
- ◆市内大学聴講生・公開講座
- ◆三鷹市市民協働センターの各種事業、団体・グループの諸活動
- ◆自主グループ

8. 生きがいを生み出す地域のチカラ

○三鷹市自治基本条例前文（平成 18 年 4 月施行）

主権者である市民の信託に基づく三鷹市政は、参加と協働を基本とし、市民のために行われるものでなければならない。市民にとって最も身近な政府である三鷹市は、市民の期待に応え、市民のためのまちづくりを進めるとともに、まちづくりを担う多くの人々が参加し、助け合い、そして共に責任を担い合う協働のまちづくりを進めることを基調とし、魅力と個性のあふれるまち三鷹を創ることを目指すものである

- ◆地域や組織を動かすのは人であり、人を動かすのは「共感」や「感動」
- ◆地域や職場等組織の多様な活動の担い手が多様であること、多世代、多職種、多様な団体の交流、連携、協働が重要
- ◆「協働」は「共感」や「感動」を喚起し、参画する人それぞれに「自己実現」「自己肯定感」をもたらす
- ◆年齢の違いを超えて、性の違いを超えて、障がいの有無を超えて国籍・民族の違いを超えて、それぞれの個性・能力と努力が活かされる「多様性」がもたらす地域のチカラ
- ◆生涯にわたって一人ひとりの能力と努力の発揮を
- ◆他者と共に生きることで「自律」が生まれ、それを支えるのが「共生」「協働」
- ◆人生 100 年を迎えて、「健康寿命」の延伸に加えて、生きがいのある「貢献寿命」の延伸を
- ◆現実社会は「多様性」のつぼ